



## 「威風堂々～超えろ自分！創れ新時代～」体育祭が無事に終了

校長 伊藤 愛

令和5年5月20日（土）、体育祭が行われました。

前日からの雨が残り、登校と開始時刻を1時間遅らせて実施しました。多くの保護者の皆様にご参観いただき、感謝申し上げます。

今年度の体育祭は、個人種目（100m走、障害物走）を増やし、一日開催としました。さらに、昨年度までの学級対抗戦から、紅白対抗戦をメインとした実施となりました。練習から、実行委員を中心とした3年生の体育祭に対する意気込みが1・2年生に徐々に浸透し、予行練習の段階で最高の体育祭となることが予感できました。

まずは、吹奏楽部の軽快な演奏に合わせて生徒入場。開会式後の全校応援。応援団の迫力ある大団旗上げ、魂のこもったエールや舞に体育祭の雰囲気は盛り上がります。続く、学年別の徒競走・障害物走で声援が飛びます。その後、学年種目の台風の目・ムカデ競争・綱引きが続き、学級対抗全員リレーで各クラスの団結がより深まりました。

午後の部は、各学年の長縄からスタート。自然と紅白の声援が大きくなり、次の紅白対抗選抜リレーでは、全体の一体感が増していきます。

そして、最後の種目、全校生徒のよさこいソーランへ。実行委員長の一声で、全校生徒がグラウンドの中心で大きな円陣を組みます。全く予想をしていませんでしたが、全校生徒の連帯感が最も感じられた瞬間でした。その後、迫力のある力強い演舞を披露しました。3学年職員も、3年生と同じ法被を着て、大きな掛け声をかけ続けました。3年生の頑張りに生徒のみならず教職員も心を突き動かされたかたちとなりました。

閉会式での、実行委員長の感謝のことばや生徒一人一人の充実感あふれる表情が、とても印象的でした。

体育祭実行委員を中心に、各係生徒が運営を支え生徒たちの手で創り上げた思い出に残る体育祭となりました。また、体育祭を通して、集団の成長を大いに感じる事ができました。この行事をステップにさらなる成長を期待しています。



心を一つに台中ソーラン



響け！台中エール（旗揚げ）



## 体育祭を終えて ～生徒の感想より～

### 体育祭実行委員長

僕は、今年の体育祭に2年分の想いを込めて、全校生徒が最高だったと言えるような行事にしたいと思い、実行委員長になりました。そして、体育祭を通して学年やクラスの関係がなく、学校全体が一つになり、絆を深めるという個人の目標を立てました。練習や本番の中で、入退場の並びを前後に揃えることや誰に対しても拍手を贈ること、ソーラン節の前に全校円陣を行ったことで、学校全体が一つになり、目標を達成することができました。また、全員が新しい自分に出会えて、新時代を創り上げることができたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

### 応援団長

私は、3年間応援団を務めました。今年はみんなを引っ張っていく立場の応援団長になりました。今年は紅白対抗なので昨年と違うところがあったり、団員が舞を覚えられなかったりして不安でした。分からないことや思い通りにいかないこと、本番までに舞を仕上げることができるのかなど、体育祭の本番が近づくにつれて焦っていました。団員が一生懸命に舞を覚えようと努力してくれて、本番に間に合うことができ良かったです。そして、団員が最後までついてくれたことが、とても嬉しかったです。本番では少し失敗もしてしまいましたが、自分の全力を出し切ることができて良かったです。

### 応援団長

応援団長として、最後の体育祭を終えました。

最初は、3年生最後の体育祭ということもあり、責任とプレッシャーに押し潰されそうでした。しかし、いざ体育祭を迎えてみると、一つ一つの出来事がとても楽しく感じ、僕にとって過去最高の体育祭になりました。そして、この体育祭から何事にも挑戦することが、この先も大切なのだということを学びました。

### よさこいリーダー長

コロナ対策の制限が緩和され、声出しが可能になった体育祭の開催で、例年以上に盛り上がったと思います。そのような体育祭で、よさこいリーダー長という大役を務めさせていただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。

よさこいは、体育祭を締めくくる最後の競技であり、最も感動する場面だと思います。本番では、今まで練習をしてきた成果を十分に発揮し、一人一人が力強い踊りをすることができました。伝説となるよさこいになったと思います。こてはし台中学校の伝統を引き継ぐことができ良かったです。来年もさらなる飛躍を期待しています。

ご声援ありがとうございました。

